

日本パーソナリティ心理学会 28 回大会

ご挨拶

～都会の喧騒を抜けだし、パーソナリティ心理学会が何か挑戦するというので
武蔵野の美術の学び舎の方へ～

この度、日本パーソナリティ心理学会第 28 回を武蔵野美術大学で開催させていただき運びとなりました。美術大学である本学は昨年までは美術・デザインに関する造形学部という学部がひとつの大学でしたが、本年度から新たな試みとして造形構想学部が新設され 2 学部になりました。造形構想学部では、必ずしもデザイナーや美術家になることを目標とせず、美術・デザインを学ぶことで得た「創造的思考力」を現実社会に活かすことのできる人材の養成を目指して、サービスデザインや制度デザインとも深くかかわる心理学にも力点を置いた教育がなされています。心理学の専任は私一人ですが、学生相談室を除いても両学部併せて 10 名の優秀な心理学者の先生に非常勤をお願いし、学生の指導にお力添えを頂いています。本大会では、そのなかから教職関連科目をご担当いただいている桂瑠以先生、色彩学や造形心理学をご担当いただいている筒井亜湖先生、心理学をご担当いただいている林明明先生、造形構想学部で構成演習をご担当いただいております牟田季純先生の 4 名の本学会会員の先生、そして生態心理学演習をご担当いただいております山本尚樹先生にも準備委員をお願いし、ご協力をいただいています。

美術系の大学での本学会大会の開催は、たぶん 2 度とないでしょうから、今回は、準備委員会として「美術製作」「創造性」といった視座から「パーソナリティ」を見直し、探ってみようという、思い切った企画を 2 つ立てています。1 つは、若手中堅の美術家が登壇する公開シンポジウムです。美術とパーソナリティ、うまくつながるのか、計画倒れで破綻するのか、新たな地平が見えるのか、予定調和なしの挑戦をぜひ目撃いただければと思います。もう 1 つは、「創造性と個性」をテーマにした大会企画シンポジウムです。この企画では、創造性をキーワードに、美術家がどのようにその美術家としての個性を発達させるかについて議論します。これは認知科学の領域で論じられてきたテーマであり、心理学の中でパーソナリティ心理学から一番遠い所にある認知科学との協奏と言う意味でも有意義であり、おそらくは 2 度と見ることのできない企画ではないかと自負しています。

上記の準備委員会企画に加え、今回は、120 を超えるポスター発表と 2 つの自主シンポジウム、1 つの委員会企画シンポジウム、2 つの講習会を予定しております。都心の喧騒を離れた玉川上水脇の美術とデザインの学び舎へ、多数の皆様のご来場をお待ちしております。

日本パーソナリティ心理学会 28 回大会準備委員会

荒川 歩

大会日程

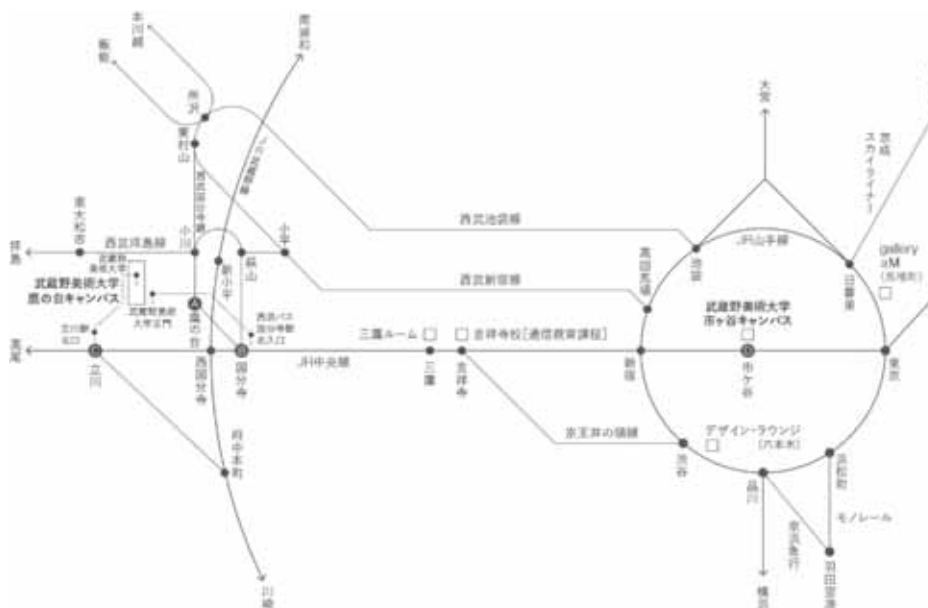
8月28日(水) 受付は9時30分～

	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00
2号館 202	10:00-12:00 ポスター発表1	展示・休憩室		15:15-17:15 ポスター発表2	
2号館 203	9:30-17:30 受付・クローク・大会本部				
2号館 204	10:00-12:00 ポスター発表1	展示・休憩室		15:15-17:15 ポスター発表2	
2号館 207	休憩室		13:00-15:00 会員企画シンポ1	15:15- 講習会1(因子分析)	
1号館 103	休憩室	12:10- 総会	13:00-15:00 公開シンポジウム	休憩室	
12号館 談話室					17:30- 懇親会

8月29日(木) 受付は9時30分～

	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00
2号館 202	展示・休憩室		13:00-15:00 ポスター発表3		
2号館 203	9:30-15:30 受付・クローク・大会本部				
2号館 204	展示・休憩室		13:00-15:00 ポスター発表3		
2号館 207	10:30- 講習会2		13:00-15:00 委員会企画シンポ		
1号館 103	10:00-12:00 大会シンポ		13:00-15:00 会員企画シンポ2		
12号館 談話室					

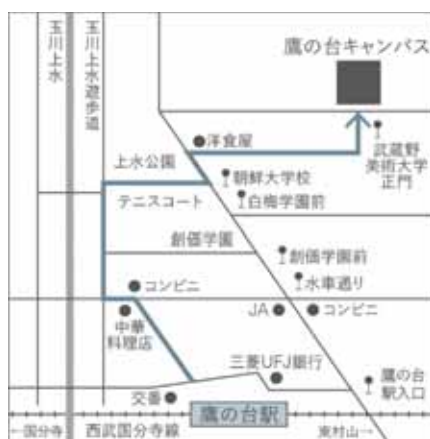
会場へのアクセス



鷹の台キャンパスへはさまざまなルートがあります。

1. JR 国分寺駅→(西武バス約 20 分)→武蔵野美術大学正門前→(徒歩すぐ)→鷹の台キャンパス
「武蔵野美術大学」行または「小平営業所」行
2. 西武国分寺線鷹の台駅→(徒歩約 18 分) →鷹の台キャンパス
3. JR 立川駅→(立川バス約 25 分)→「武蔵野美術大学」→(徒歩すぐ) →鷹の台キャンパス
「武蔵野美術大学」行

このうち JR 国分寺駅から西武バス乗り場までの徒歩ルート、西武国分寺線鷹の台駅から鷹の台キャンパスまでの徒歩ルートを下記に紹介します。他のルートについては大学ウェブサイトをご覧ください。



キャンパスマップと会場図



大会参加者へのご案内

1. 会期と会場

会期：2019年8月28日(水)・29日(木)

会場：武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス（〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736）

2. 大会参加に関する諸費用

大会参加費	当日	一般会員	10000円
		院生会員	8000円
		非会員（一般）	11000円
		非会員（院生）	9000円
懇親会 (大会参加者のみ)	当日	一般（会員・非会員）	2500円
		院生（会員・非会員）	1500円
発表論文集	予約注文のみ(5月30日まで) (送料込み)		5000円

※発表費用は参加費に含まれます。

※学部生については、大会参加費 2000円、懇親会費 1000円です。

※なお、一旦お振り込みいただいた参加費につきましては、後日ご参加を取りやめた場合も返金に応じませんのでご了承ください。

3. 会場設備

●受付・クローク・本部

2号館 203 に受付を設置いたします。大会に参加される方は、会員・非会員、予約参加・当日参加にかかわらず、必ずお立ち寄り下さいますようお願いいたします。受付にて、参加証および領収書をお渡しいたします。受付時間は大会 1日目（8月27日）、2日目（8月28日）とも9:30からです。貴重品につきましては、各自で管理いただきますようお願いいたします。

●休憩室

大会で利用する1号館の103と2号館の202、204、207のうち、各時間帯に利用していない教室を休憩室として開放します。飲み物等は2号館202と204にてご提供します。

- 展示・書籍販売

2号館202と204に展示・書籍販売スペースを設置いたします。

- 会期中の昼食

大会期間中は、キャンパス内にある飲食施設は営業していません。大会1日目は、総会参加者にお弁当を配布します。会場から徒歩10分ほどのところにコンビニや飲食店がありますが(詳細は当日配布するランチマップをご覧ください)、大会2日目のお昼はお弁当等を持参されることをお勧めします。

- 駐車場

会場のキャンパス内には駐車場がございません。公共交通機関をご利用ください。

4. その他(注意点)

- メディアへの発信

大会期間中、大会公式ツイッターが大会の情報を発信しますのでご協力ください。各参加者が個人で発表の録音および録画、撮影等をする場合は、発表者の許可を取るようお願いいたします。また、TwitterやFacebookなど第三者が閲覧できるメディアに他者の発表に関する内容を発信する場合は、当該発表の発表者や他の参加者の気分を害することがないようにお願いいたします。

- 会場内での飲食

大会会場では飲食が可能です

5. 大会関連行事のご案内

- 総会

大会1日目(8月28日)の12:10より1号館103教室にて開催いたします。事前に大会参加予約をされている方には昼食を準備しております。当日参加申込者の方への昼食のご用意には限りがありますので、各自ご用意ください。

- 懇親会

大会1日目(8月28日)の17:30より12号館談話室MAUにて開催いたします。当日参加の受付は大会受付で行います。優秀大会発表賞受賞者のポスターは可能な限り、懇親会会場で掲出させていただきたいと考えております。

- 各賞授賞式 大会 1 日目の総会にて優秀大会発表賞受賞者、並びに学会賞・奨励賞等の発表を行います。大会 1 日目の懇親会にて表彰状の授与を行います。
- ヤングサイコジストプログラム（YPP2019） 大会前日（8月 27日）14：00より、12号館 302 教室にて行います。
- ミドルサイコジストプログラム（MPP2019） 大会 2 日目（8月 29日）13：00より開始されます。経常的研究交流委員会の企画と連動して行われます。

6. 各種更新ポイントについて

本大会は臨床心理士の資格更新ポイント対象となっております。臨床心理士に関しては、「日本臨床心理士資格認定協会:臨床心理士資格更新制度」の「3 本協会が認める関連学会での諸活動への参加」に該当します。

発表者へのご案内

1.ポスター発表

- 今大会のポスター発表は、3 セッションとなります。日時は「大会日程」をごらん下さい。
- 発表者はセッション開始 10 分前までに、会場前のポスター発表受付へお越しください。リボンをお渡しします。リボンはセッション終了後にご返却ください。
- 発表者は、セッションの開始時刻までに自分の発表番号のパネルにポスターを掲示し、在席責任時間（奇数番号はセッション開始後 60 分、偶数番号はセッション終了前 60 分）の間、質疑に応じる必要があります。
- セッション終了時刻になったら、速やかにポスターの撤去をお願いいたします。撤去されないまま放置されたポスターは大会準備委員会で処分いたします。
- 発表パネルの大きさは、1 発表につき、縦 118cm、横 84cm（A0）です。パネルに収まるのであれば、ポスターのサイズは問いません。ただし、掲示スペースの上部に「発表題目」「氏名」「所属」を明記してください。パネルへの貼り付けに必要な道具は大会準備委員会で準備いたします。なお、資料を配付する場合には、各自で事前に準備していただき、配布するようお願いいたします。コピー機等の用意はありませんので、資料等をご自身でご準備ください。
- 責任発表者がやむを得ない事情により欠席する場合、事前に大会準備委員会の承認を得て、連名発表者が発表を代行することができます。ただし、承認がない場合、正式な発表として認められない場合がありますので、ご注意ください。代行や発表取り消しについては、事前に大会準備委員会までご連絡ください。
- 今大会では、例年同様、優秀大会発表賞を設けます。

2.準備委員会企画・各種委員会企画・自主企画

- 会場に発表資料投影用の機材（プロジェクター、スクリーン）を用意します。パソコンは各自でご準備ください。映像出力には HDMI、VGI いずれもご利用いただけます。
- 登壇者は、各プログラム開始の 5 分前までに会場にお越しいただき、あらかじめファイルをパソコンに入れておくなどの事前準備をしていただきますようお願いいたします。

ヤングサイコジストプログラム (YPP2019)

大会前日に、下記の要領で開催します。若手研究者同士の交流を深める貴重な機会ですので、ぜひ奮ってご参加ください。

開催日時: 2019年8月27日(火) 14:00 ~ 17:15 (13:30より受付開始)

開催場所: 武蔵野美術大学鷹の台キャンパス 12号館 302教室

参加費: 無料 (懇親会費は、別途3000~4000円程度を予定)

<企画内容>

企画1: 若手会員による講演 & 質疑応答

企画2: ミニポスターセッション (参加者間での研究紹介や意見交換)

<詳細・参加方法>

日本パーソナリティ心理学会 web サイトの「2019年度ヤングサイコジストプログラム (YPP2019)」よりご確認ください (https://jspp.gr.jp/sympo/wk_r1/)。

ミドルサイコジストプログラム (MPP2019)

大会最終日に、下記の要領で開催します。

中堅研究者の先生の中には、学内業務に追われ、なかなか研究に時間を割けない方も多いと思います。是非この機会に、同じ境遇に置かれた同世代の研究者と知己を得てはいかがでしょうか。

他の中堅研究者とのつながりができる貴重な機会です。小規模でアットホームな会です。参加者はみなさん面識がありませんので、学会終わりの休息にお気軽にお立ち寄りください。

開催日時: 2019年8月29日(木) 委員会企画シンポ後(15:00)小一時間程度

集合場所: 武蔵野美術大学鷹の台キャンパス 2号館 207教室

参加費: 無料 (茶菓子などをご用意しております)

参加資格: 30台半ばから50歳ぐらいまでの男女

<企画内容>

茶話会: お茶を飲みながら、中堅研究者として抱える研究や学内業務、私事に関する問題意識や悩みごとなどをざっくばらんに話し合います。茶話会を通して交流を深め、今後の学会参加へのモチベーションを高めましょう。

<詳細・参加方法>

当日参加で構いません。13:00からの委員会企画シンポ『社会問題とパーソナリティ』の終了後に、教室にお残りください。他企画にご参加予定の方は、終了後に2号館207教室にお越しください。

大会準備委員会企画シンポジウム

8月29日(木) 10:00-12:00

アートとパーソナリティ

— 普遍のなかの個性が創る —

企画者：筒井亜湖（武蔵野美術大学）

日本パーソナリティ心理学会第28回大会準備委員会

司会者：荒川歩（武蔵野美術大学）

話題提供者：横地早和子（東京未来大学）

山本尚樹（武蔵野美術大学、立教大学）

宮下達哉（日本大学）・筒井亜湖（武蔵野美術大学）

指定討論者：渡邊芳之（帯広畜産大学）

長谷川敦士（武蔵野美術大学）

企画趣旨

アートは、生や世界の普遍的価値の追及であり、しかし同時にその表現は、「誰かのような表現」ではなく、自分なりの表現が求められる。これを普遍的な目的(生きている世界に適応する)と個別的な目的(その個人なりの方法で)の達成と考え、これはまさにパーソナリティ心理学のテーマと直結するものであると言える。アートとパーソナリティ心理学の接合を考える場合、各時点における創造あるいはパーソナリティの状況の把握とともに、住む世界の中でのその熟達に注目する必要がある。本企画では美大出身で心理学に転じた2名を含む4名の話題提供者の発表を踏まえ、パーソナリティ心理学者である渡邊芳之先生と、武蔵野美術大学造形構想学部教授であり、株式会社コンセントの社長でもある長谷川敦士先生に指定討論者として議論に参加してもらうことで、アートとパーソナリティとの関わりについて考えるとともに、アートへの心理学的探求の可能性を模索したい。

公開シンポジウム

8月28日(水) 13:00-15:00

作品を通して社会と関わる≠パーソナリティを通じて社会と関わる？

企画者：早川祐太（美術家・武蔵野美術大学）

日本パーソナリティ心理学会第28回大会準備委員会

司会者：荒川歩（武蔵野美術大学）

登壇者：早川祐太（美術家・武蔵野美術大学）

高石晃（美術家）

灰原千晶（美術家）

企画趣旨

パーソナリティ心理学では、人は、生物学的基盤を基に、社会との相互作用の中でのパーソナリティを創り、パーソナリティを通じて社会と関わっていると考えられている。アーティストは、自身の経験や感性を基に、社会との相互作用の中で作品を作り、作品を通じて社会と関わっている。本企画の登壇者の早川祐太氏は彫刻やそれらを構成したインスタレーションなど、高石晃氏は絵画、灰原千晶氏はビデオや写真などを使った作品制作を通して社会と接合してきた。本企画では、この、まさに今新しい作品を世に送り出している若手・中堅作家たちに自身の作品を紹介してもらうとともに、それを作り出した意図を少し説明してもらい、フロアの心理学者とディスカッションするなかで、アートという営為から、パーソナリティ心理学を考える新たな視座を獲得することを目指す。

登壇者紹介：

早川祐太氏

2010年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース修了。

主な展示として「クリテリウム 95 早川祐太」水戸芸術館現代美術センター（2018, 茨城）「U-TURN Projects Rooms by Mercedes-Benz」arteBA（2017, ブエノスアイレス）、個展「about body」HAGIWARA PROJECTS（2016, 東京）、「早川祐太×高石晃×加納俊輔 [三つの体、約百八十兆の細胞]」500m 美術館（2015, 札幌）、個展「i」HAGIWARA PROJECTS（2013, 東京）、「:No Subtitle」HAGIWARA PROJECTS（2013, 東京）、個展「複合回路

Vol.2 早川祐太」 gallery dM(2010, 東京)「Re:Membering - The Next of Japan」
Alternative Space LOOP(2009, ソウル)等。など

高石晃氏

2010 年武蔵野美術大学大学院美術専攻油絵コース修了。

主な展示として、個展「下降庭園」clinic(2019, 東京)、個展「地下水脈」Maki Fine Arts (2016, 東京)、「早川祐太×高石晃×加納俊輔 [三つの体、約百八十兆の細胞]」500m 美術館 (2015, 札幌)、「わたしの穴、美術の穴」スペース 23℃ (2015, 東京)、個展「シャンポリオンのような人」児玉画廊 (2013, 東京) など。

灰原千晶氏

2013 年武蔵野美術大学造形学部油絵学科油絵専攻卒業。東京芸術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス (GAP) 専攻在籍。

主な展示として、「福島ビエンナーレ 2018」(2018, 福島)、個展「縫いなおされる星座」switch point (2017, 国分寺)、「COMPLEX TOPOGRAPHY: THE PAVILION (複雑なトポグラフィー)」(2017, 英国)、「境界を跨ぐと、」東京都美術館 (2017, 東京)、個展「もうそうかもしれない」ギャラリーなつか (2017, 東京)、「新収蔵展」佐久市立近代美術館 (2016, 長野)「武蔵美 × 朝鮮大 突然、目の前がひらけて」(2015, 武蔵野美術大学 FAL、朝鮮大学美術棟 1 階展示室)

講習会 1

8月28日(水) 15:15-17:15

しなやかな因子分析モデル:非正規データを扱う tips

講師：竹林由武(福島県立医科大学)

企画・司会：牟田季純(早稲田大学)

企画趣旨

ベイズ流の統計アプローチは、研究仮説を直接的に検証できることだけでなく、多様な確率分布を扱いながら柔軟な統計モデリングが可能になるというところに大きなメリットがあります。日本パーソナリティ心理学会ではこの新しい潮流に際して、これまでに繁樹先生(第25回大会)や豊田先生(第26回大会)による講演を企画してきました。そして今回は、パーソナリティ研究における心理統計学の本丸とも言える「因子分析」に焦点を当て、伝統的な統計学では扱いが難しかった非正規データやより柔軟な因子分析モデルの作り方、またそうした解析手法の実場面での運用の仕方についてもご紹介いただきます。

講師紹介

福島県立医科大学医学部(生命科学・社会医学系)健康リスクコミュニケーション学講座助教。広島大学総合科学研究科総合科学専攻博士課程修了(博士(学術))。臨床心理士。日本学術振興会特別研究員、情報・システム研究機構統計数理研究所特任助教を歴任。認知行動療法を軸にした医療現場での臨床活動はもとより、ウェルビーイング療法を日本に紹介するとともに、疫学や臨床研究の方法論や解析法の研究にも余念がなくその普及教育にも幅広く尽力している。

主著

- ・『M-plusとRによる構造方程式モデリング入門』北大路書房 2014年
- ・『ウェルビーイング療法 -治療マニュアルと事例に合わせた使い方』星和書店 2018年(共訳)

講習会 2

8月29日(木) 10:30-12:00

研究者・教育者のための著作権法入門

講師：志田陽子（武蔵野美術大学）

企画：日本パーソナリティ心理学会第28回大会準備委員会

司会：大久保智生(香川大学)

企画趣旨

学問によって過剰な規制を受けずに、自由に発展・追及されることは社会的にも必要なことである。しかし、それが他者の権利の侵害になることは望ましくない。ところが、その境目はどこにあるのかの判断は、この点について体系的な教育を受けたわけではない心理学者には時には難しく、過剰に抑制的になってしまうこともあるだろう。そこで、本企画では、表現の自由と他者の権利に焦点をあてた研究を数多く出版されている志田陽子先生に、研究者、教育者として心理学者が関わりそうな問題に関して、考え方のエッセンスをご紹介いただく。

講師紹介

武蔵野美術大学造形学部教授。

早稲田大学大学院法学研究科 博士後期課程単位取得退学(博士(法学))。日本女性法律家協会副会長、AV人権倫理機構代表理事などを歴任。大学では、教職必修「日本国憲法」、「法と人権」、表現活動にかかわる法律・社会倫理に関する講座を担当し、自治体の社会講座などでも、表現活動と法に関する講座で講演活動を行っている。

主著

- ・『「表現の自由」の明日へ 一人ひとりのために、共存社会のために』大月書店 2018年
- ・『あたらしい表現活動と法』武蔵野美術大学出版局 2018年
- ・『【合格水準】教職のための憲法』法律文化社 2017年
- ・『表現者のための憲法入門』武蔵野美術大学出版局 2015年
- ・『映画で学ぶ憲法』（編著）法律文化社 2014年
- ・『文化戦争と憲法理論――アイデンティティの相剋と模索――』法律文化社 2006年

経常的研究交流委員会企画 シンポジウム

8月29日(木) 13:00-15:00

社会問題とパーソナリティ

企画者：日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会

司会者：水野君平（北海道大学）

話題提供者：三船恒裕（高知工科大学）

栗田季佳（三重大学）

土井理美（東京医科歯科大学）

指定討論者：北村英哉（東洋大学）

企画趣旨

障害者差別問題、外国人に対する問題（ヘイトスピーチを含む）、女性への性的加害、貧困（子どもの貧困を含む）など、特定の属性を有する人々をとりまく社会問題が、近年様々なメディアで取り上げられるようになってきている。

こうした問題は、社会の構造的問題の反映である一方、社会の成員1人1人の個人差とも深く関わるものである。例えば特定のパーソナリティ傾向が差別や偏見の生起に影響したり、そうした社会的状況に晒される経験が、逆にパーソナリティ形成に影響したりすることなどが考えられる。

本シンポジウムでは、これらの社会問題に対して、個人差の視点から議論を行う。具体的には、基礎研究として「社会的支配志向性」の知見を紹介し、個別領域の研究として、障害と偏見および、子どもの貧困領域における研究を紹介する。

これらの基礎的・応用的研究を踏まえ、パーソナリティ・個人差研究の視点からどのような知見が得られるのか、どのようにすればこのような社会的問題は低減できるのかを議論したい。

シンポジウム終了後にミドルサイコジストプログラム『中堅研究者たちの茶話会』がありますので、お気軽にご参加ください。詳細は本誌のミドルサイコジストプログラムのページをご覧ください。

会員企画シンポジウム1

8月28日(水) 13:00-15:00

先延ばしとは何か

—特性と不適合性から考えなおす—

企画者：小浜 駿(宇都宮共和大学シティライフ学部)

司会者：小浜 駿(宇都宮共和大学シティライフ学部)

話題提供者：林 潤一郎(成蹊大学経済学部・学生相談室)

黒住 嶺(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

吉田 恵理(大見山クリニック・聖心女子大学)

指定討論者：小浜 駿(宇都宮共和大学シティライフ学部)

企画趣旨

先延ばし(procrastination)は、言葉の通り「先に延ばす」行動的現象である。しかし、現象そのものよりは個人特性として検討されることが多かった。これは、治療を主な目的としてきた研究当初の文脈に由来する。すなわち、いつも先延ばしをして学業成績や精神的健康に悪影響を与える個人をスクリーニングする手段として、先延ばしをしやすい性格が測定されてきた。

個人特性として先延ばしを捉えるアプローチは調査研究との相性が良く、多くの性格特性と先延ばし特性との関連が検討されてきたが、こうした先延ばし研究の現状は、いささか中途半端なものと言える。なぜなら、治療のためのスクリーニングとして特性的検討を行うという当初の目的に立てば、調査研究に傾倒しすぎであると言え、現象理解のための研究をするうえでは「先に延ばす」行動的現象に対する検討が乏しいためである。

そこで、改めて「先延ばしとは何か」という問いから、現象を特性的に考えることの利点と限界についてパーソナリティ研究の専門家である会員の皆様と考えてみたい。

会員企画シンポジウム2

8月29日(水) 13:00-15:00

社会問題に挑む行動遺伝学

企画者：川本哲也(東京大学大学院教育学研究科)

安藤寿康(慶應義塾大学文学部)

司会者：川本哲也(東京大学大学院教育学研究科)

話題提供者：川本哲也(東京大学大学院教育学研究科)

敷島千鶴(帝京大学文学部心理学科)

安藤寿康(慶應義塾大学文学部)

企画趣旨

双生児法をはじめとする行動遺伝学研究は、知能やパーソナリティ特性などの種々の個人差変数に影響する遺伝要因と環境要因の寄与を繰り返し明らかにしてきた。そして今なお、行動遺伝学的手法は社会科学において数多く用いられ、社会における格差や貧困、道徳・利他性、政治行動に関わるシティズンシップ、社会的態度といった、社会科学における重要な問題に対し知見を提供し続けている。

慶應義塾ふたご行動発達研究センターでは、そのような現代社会における問題を遺伝要因と環境要因から明らかにすべく、新たに「学力と生きる力のふたご家族調査」を開始した。この調査は首都圏ふたごプロジェクトに参加するふたごの子ども達とその両親を対象とし、子ども達の学力、ウェルビーイングや適応感、政治的関心や男女平等意識、養育投資行動などを測定している。本調査は、得られたふたご家族のデータに基づき、学力や社会的態度の発達とそのアウトカム、それらに影響する父親と母親の養育行動について、遺伝要因と環境要因の観点からそのメカニズムを明らかにすることを目的としている。本自主シンポジウムでは、2017年度末(2018年2-3月)に行われたベースライン調査の結果を中心に、政治的関心、学力、利他性という社会的注目度の高いトピックについて、遺伝要因と環境要因の寄与を検討した結果を紹介したい。

ポスター発表1 8月28日(水) ポスター掲出時間(10:00-12:00)

在籍責任時間 奇数番号(10:00-11:00) 偶数(11:00-12:00) (#は非会員)

1-1	高齢者のインターネット使用と社会関係 (1) —インターネットの使用が社会的活動に 及ぼす影響の検討—	桂瑠以 橋本和幸	川村学園女子大学 了徳寺大学
1-2	高齢者のインターネット使用と社会関係 (2) —インターネットの使用とオフラインの 交流との関連—	橋本和幸 桂瑠以	了徳寺大学 川村学園女子大学
1-3	有用性思考方略尺度の作成① —動機づけ変数および学習方略との関連 —	三和秀平 解良優基	関西外国語大学 南山大学
1-4	有用性思考方略尺度の作成② —利用価値認知を媒介した興味への影響 —	解良優基 三和秀平	南山大学 関西外国語大学
1-5	二分法的思考傾向とレスポンス・スタイ ルの関連 —複数の採点法を用いた検討—	石川武 敷島千鶴	帝京大学文学研究科臨床心理 学専攻 帝京大学文学部心理学科
1-6	「うつ病の友人を援助することのコスト 感」の中核的要素の特定 —ネットワーク分析に基づく検討—	櫻原潤 坂本真士	日本大学/日本学術振興会 日本大学
1-7	心理学的タイプと精神的健康、主観的適 応との関連	佐藤淳一	武庫川女子大学
1-8	パーソナリティ障害傾向と関係性に対す る認知における友人間の差異	市川玲子 外山美樹	株式会社イデアラボ 筑波大学
1-9	向社会的行動を導く動機づけに対する教 師の指導行動の調整効果 —教師のPM自己評定得点を用いて—	山本琢俣 上淵寿	早稲田大学教育学研究科 早稲田大学

1-10	SNS 利用時のストレス経験の測定 —閲覧状況, 相互作用状況ごとの検討—	佐藤広英	信州大学
1-11	多次元項目反応理論を用いた二百五十戒 の分析 —破戒傾向とマインドフルネス 特性の関係—	牟田季純 阿部哲理 # 石川遥至 # 越川房子 #	早稲田大学文学学術院 早稲田大学大学院文学研究科 早稲田大学文学学術院 早稲田大学文学学術院
1-12	ZICE の適用可能性についての検討 -フィールドワーク参加者の体験を把握 する-	五十嵐麻希 山下温子 後藤龍太 森慧太郎 齋藤央騎 山元隆子 平野直己	岩見沢キャンブ心理学研究会 岩見沢キャンブ心理学研究会 岩見沢キャンブ心理学研究会 岩見沢キャンブ心理学研究会 岩見沢キャンブ心理学研究会 岩見沢キャンブ心理学研究会 岩見沢キャンブ心理学研究会
1-13	制御焦点の違いが主観的活性感と失敗の 認知に与える影響	小笠原香苗 高井次郎 # 中川敦子 #	名古屋大学大学院教育発達科 学研究科 名古屋大学大学院教育発達科 学研究科 名古屋市立大学大学院人間文 化研究科
1-14	具体的な衝動的行動の背景要因 —S-UPPS-P 衝動的行動尺度を用いた検 討—	鈴木公啓 矢澤美香子 山宮裕子 #	東京未来大学 武蔵野大学 テンプル大学ジャパン
1-15	中高生の解離傾向と学校での孤立傾向と の関連 —2 年半のパネル調査から—	森彩乃	お茶の水女子大学人間文化創 成科学研究科
1-16	ポジティブな自伝的記憶と個人特性 —大学生へのインタビュー及び質問票に よる探索的研究—	齊藤友詩	大正大学大学院人間学研究科 臨床心理学専攻 (現: 埼玉医 療福祉会丸木記念福祉メディ カルセンター)
1-17	感覚処理感受性と自尊感情の適応的側面 との関連	矢野康介 大石和男	立教大学 立教大学

1-18	沈黙は金, 雄弁は銀なのか? 一利他的な嘘及び否定的フィードバックの道徳性と受容されやすさの検討—	田口恵也	名古屋大学大学院教育発達科学研究科
1-19	「共感」についての印象の検討	中妻拓也	立命館大学 総合心理学部
1-20	パーソナリティの認知過程(8) —認知主体のクラスター分析—	岩熊史朗	駿河台大学
1-21	大学生と高齢者のプライバシー意識の比較	太幡直也 佐藤広英 二宮克美	愛知学院大学 信州大学 愛知学院大学
1-22	楽観性が下位目標の追求に及ぼす影響 —実際の日常場面に着目して—	外山美樹	筑波大学
1-23	中学生の社会的視点取得能力と討論スキルの発達	藤澤文	鎌倉女子大学
1-24	曖昧さ耐性の年代差について	友野隆成	宮城学院女子大学
1-25	援助要請スタイル間の質的差異に関する検討 —悩み・親和動機・自律性に注目して—	永井智	立正大学
1-26	大学生を対象にしたビッグファイブ特性の望ましさに関する調査	河村壮一郎	鳥取短期大学
1-27	生活史戦略と居住地域との関連	喜入暁	大阪経済法科大学
1-28	類型論と特性論の関連性の検討 —質が異なる回答者の混在の観点から—	萩生田伸子	埼玉大学

1-29 単語分散表現によるパーソナリティ表現 語取得と因子構造検討	岩井律子 熊田孝恒 # 河原大輔 # 黒橋禎男 #	京都大学大学院情報学研究科／理 研 BSI-トヨタ連携センター 京都大学大学院情報学研究科／理 研 BSI-トヨタ連携センター 京都大学大学院情報学研究科 京都大学大学院情報学研究科
1-30 大学生における意思決定と精神的健康及 び友人満足感の相互規定関係	岩淵将士	東北大学大学院教育学研究科
1-31 Grit における根気・一貫性成分と学力と の関係 —高校 3 年間の模擬試験を通じた得点の 推移との関連—	西川一二 楠見孝 # 白川隆朋 #	京都大学教育学研究科 京都大学教育学研究科 ベネッセコーポレーション
1-32 大学生のエイジングに関する知識： 日本、中国、アメリカの国際比較	富岡比呂子 Zhan Q. Ginny # Speacy M. Sharon #	創価大学 Kennesaw State University Kennesaw State University
1-33 地域安全マップを作成可能な防犯ウォー キングアプリの開発 (2) —大学生の地域防犯マップ作成活動の教 育効果の検証—	大久保智生 米谷雄介 # 岡田涼 八重樫理人 #	香川大学 香川大学創造工学部 香川大学教育学部 香川大学創造工学部
1-34 自己不確実性が自尊心と不安・抑うつを 介して目標志向性に及ぼす影響	大西彩奈	名古屋大学
1-35 状態共感と特性共感との関係 —中学 1 年生と大学生のデータを用いた 分析—	登張真稲	文教大学
1-36 大学生の多次元共感性・親和動機とボラ ンティア活動との関係 —参加志向動機・不参加志向動機に及ぼ す影響—	荒井俊行	早稲田大学

1-37 自己の物語構築におけるメンタライジ グの役割 ーレビューを通した Narrative- Mentalizing モデル作成の試みー	松葉百合香 LEE STEVE 原口幸 板野蛭 岩崎美奈子 # 井原成男 # 桂川泰典	早稲田大学大学院 早稲田大学大学院 早稲田大学大学院人間科学研究科 早稲田大学大学院人間科学研究科 早稲田大学人間科学学術院 早稲田大学人間科学学術院 早稲田大学
1-38 ソーシャル・ネットワークが内的作業モ デルに与える影響	板野蛭 原口幸 松葉百合香 LEE STEVE 岩崎美奈子 # 井原成男 #	早稲田大学大学院人間科学研究科 早稲田大学大学院人間科学研究科 早稲田大学大学院 早稲田大学大学院 早稲田大学人間科学学術院 早稲田大学人間科学学術院
1-39 Effect of self-regard on academic achievement in childhood	加藤仁 梅本貴豊	北陸学院大学 京都外国語大学
1-40 愛着スタイル特性と嫉妬のプロセス（嫉 妬の経験・表出）の関連	神野雄	東京経営短期大学

ポスター発表2 8月28日(水) ポスター掲出時間(15:15-17:15)

在籍責任時間 奇数番号(15:15-16:15) 偶数(16:15-17:15) (#は非会員)

2-1 うつ病患者と子どもの親子関係に関する研究(1) —子どものケア提供行動に着目して—	佐藤みのり	お茶の水女子大学大学院/医療法人社団心癒会しのだの森ホスピタル
	齋藤彩	お茶の水女子大学/国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
	坂田侑奈	お茶の水女子大学大学院
2-2 うつ病患者と子どもの親子関係に関する研究(2) —注意欠如・多動傾向に着目して—	齋藤彩	お茶の水女子大学/国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
	坂田侑奈	お茶の水女子大学大学院
	佐藤みのり	お茶の水女子大学大学院/医療法人社団心癒会しのだの森ホスピタル
2-3 うつ病患者と子どもの親子関係に関する研究(3) —自閉症スペクトラム傾向に着目して—	坂田侑奈	お茶の水女子大学大学院
	佐藤みのり	お茶の水女子大学大学院/医療法人社団心癒会しのだの森ホスピタル
	齋藤彩	お茶の水女子大学/国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
2-4 ギャルの女子力	山岡重行	聖徳大学心理学科
2-5 社会人を対象とした日常生活における他者操作方略尺度の作成 —尺度作成と因子分析—	木川智美	昭和女子大学大学院
	今城周造	昭和女子大学大学院
2-6 情緒通級指導教室に通う児童のレジリエンスの特徴	吉原勝	関西大学大学院心理学研究科
2-7 先延ばし意識特性尺度の再検討 —先延ばし特性の高低による回答の比較	小浜駿	宇都宮共和大学

2-8	大学生のアルバイト経験と心理的自立および職業意識の関連	渡辺伸子	東北公益文科大学
2-9	中国における大学受験生の抑うつ傾向及び防御要因に関する検討 —ストレスマインドセットに注目して	劉艶艶	お茶の水女子大学
2-10	特別支援教育を必要とする児童の発達障害特性が睡眠と夢に及ぼす影響	松田英子 吉原勝	東洋大学社会学部 関西大学大学院心理学研究科
2-11	他者のためになると思うことによる作業の増加量と協同作業への意識の関連	徳岡大	高松大学
2-12	特定の自伝的記憶の機能を測定する尺度の構成 —LESFAMの作成—	槇洋一	北海道大学文学研究科
2-13	アイデンティティとレジリエンスの概念的関連性について —構造方程式モデリングによる因子構造の検討—	柴田康順	大正大学心理社会学部臨床心理学科
2-14	中学生における社会的達成目標と援助要請との関連の検討	海沼亮 外山美樹	筑波大学大学院・日本学術振興会特別研究員 筑波大学
2-15	ノスタルジア体験時における過去への認知がストレスに及ぼす影響	長峯聖人 外山美樹	筑波大学大学院／日本学術振興会 筑波大学
2-16	年代間・個人内からみたパーソナリティの特徴について —Big Five 各特性をもとに—	水野邦夫	帝塚山大学
2-17	サイコパシーの他者操作方略の実態 —Dark Triadの項目を用いた半構造化面接	黄夢荷	関西大学大学院心理学研究科

2-18	アバターを用いた CMC がコミュニケーションに及ぼす効果の検討	小川大和	金沢工業大学大学院心理科学研究科
2-19	罪悪感が被害反復の抑制に与える影響	池田怜央	金沢工業大学大学院心理科学研究科
2-20	認知的方略が大学新入生の対人行動に及ぼす影響 —潜在成長モデルを用いた検討—	清水陽香 中島健一郎 #	日本学術振興会 広島大学
2-21	自己愛傾向と養育態度の関連 —対象関係に着目して—	亀倉大地 安保英勇 #	東北大学大学院教育学研究科 東北大学大学院教育学研究科
2-22	訪問看護師のバーンアウトに関する要因の検討 —ハーディネスの視点から—	首藤のりこ 高橋直美 # 桂川泰典	みなとホームケアクリニック 益城病院 早稲田大学人間科学学術院
2-23	中学生の学校自慢はなぜ部活なのか —Bukatsu の文化心理学(6)—	尾見康博 小野田亮介 #	山梨大学大学院 山梨大学大学院
2-24	登校回避行動尺度作成の試み —妥当性の検討を中心に—	桂川泰典 田中友梨香 # 飯島有哉 # 松葉百合香 山田達人 #	早稲田大学人間科学学術院 所沢市教育委員会 早稲田大学大学院人間科学研究科, 日本学術振興会 早稲田大学大学院人間科学研究科 明星大学大学院人文学研究科
2-25	興味と動機づけ調整方略との継時的な関連—動機づけの低下状況に着目して—	湯立 外山美樹	筑波大学大学院 筑波大学
2-26	保護者評定によるデジタルゲーム依存尺度の作成(2) —項目反応理論による検討—	松尾由美 堀内由樹子 寺本水羽 田島祥 鄭姝 # 坂元章	関東短期大学 お茶の水大学大学院 お茶の水女子大学 東海大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学

2-27	ウェブにおける「発達障害」に関する言説の分析 —「発達障害」の社会的構成についての探索的検討—	中村日海里 栗田季佳 #	三重大学大学院教育学研究科 三重大学教育学部
2-28	二分法的思考と対人特性	三枝高大 小塩真司	早稲田大学/日本学術振興会 早稲田大学文学学術院
2-29	自尊感情と Big Five およびそのファセットとの関連	下司忠大 小塩真司	早稲田大学, 日本学術振興会 早稲田大学
2-30	告白者の魅力に対する認知と告白の諾否との関連	高坂康雅	和光大学
2-31	顕在・潜在的内的作業モデルが主観的・客観的共感性に及ぼす影響 —MET-CORE2 日本語版を用いて—	大浦真一 松尾和弥 稲垣勉 島義弘 福井義一	甲南大学 甲南大学大学院 鹿児島大学 鹿児島大学学術研究院 甲南大学
2-32	「ふつう」志向性と独自性欲求が本来感に及ぼす影響	向居暁	県立広島大学
2-33	行為を制約する身体的特性と自由意志信念の関連	今泉修	お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所
2-34	自己呈示の内在化は潜在的指標において観察されるか？ —Tice (1992) のパラダイムを用いた IAT による検討—	上田皐介 稲垣勉 加藤弘通 #	名古屋大学 鹿児島大学 北海道大学
2-35	青年期における内的ワーキング・モデル及びアイデンティティ探索との関連	原口幸 井原成男 #	早稲田大学大学院人間科学研究科 早稲田大学人間科学学術院
2-36	ネット荒らしに及ぼすサディズム傾向と身体への気づきの影響	増井啓太	追手門学院大学

2-37 同調行動を行う動機とその効果について	ケイン聡一 中島健一郎#	広島大学 広島大学
2-38 日本版 HEMA 尺度の一般化可能性 —性別・年代を通じた測定不変性の検討—	浅野良輔	久留米大学
2-39 愛着スタイル尺度の弁別的妥当性の検討 —表情の情動認知に及ぼす影響—	松尾和弥 大浦真一 島義弘 稲垣勉 福井義一	甲南大学大学院 甲南大学 鹿児島大学学術研究院 鹿児島大学 甲南大学
2-40 対人特性の構造分析 —クラスター分析による検討—	橋本泰央 小塩真司	早稲田大学・帝京短期大学 早稲田大学文学学術院
2-41 大学生における“癒し”としての音楽聴取 傾向に関する研究 —顕在性不安との関連から—	佐田吉隆	広島修道大学経済科学部

ポスター発表3 8月29日(木) ポスター掲出時間(13:00-15:00)

在籍責任時間 奇数番号(13:00-14:00) 偶数(14:00-15:00) (#は非会員)

- | | | | |
|------------|--|--|--|
| 3-1 | オタクの心理学(3)
アニメ・マンガへの熱中度合とその関連
要因 | 岡田有司 | 東北大学 |
| 3-2 | オタクの心理学(4)
アニメ・マンガオタクに対する寛容度合
とその関連要因 | 家島明彦
岡田有司 | 大阪大学
東北大学 |
| 3-3 | 大学生の留学体験における性格特性と異
文化適応との関連(1)
—留学体験学生と国内待機学生との比較
— | 沼田真美
小田切紀子
Noftle Erik# | 大妻女子大学
東京国際大学
Willamette University |
| 3-4 | 大学生の留学体験における性格特性と異
文化適応との関連(2)
—大学生対象の留学前と留学中における
追跡調査— | 小田切紀子 | 東京国際大学 |
| 3-5 | 親子ふれあい遊び体験が育児認識に及ぼ
す影響
—親子ふれあい遊びと気質特徴に適合し
た親子ふれあい遊びの比較より— | 武井祐子
門田昌子
奥富庸一
竹内いつ子
岩藤百香#
寺崎正治 | 川崎医療福祉大学
川崎医療福祉大学
立正大学
川崎医療福祉大学
川崎医療福祉大学
川崎医療福祉大学 |
| 3-6 | あくびが伝染する人の共感性は本当に高
いのか?
—主観的・客観的共感性との関連— | 福井義一 | 甲南大学 |
| 3-7 | 日本人版嗅覚イメージ鮮明度質問紙(J-
VOIQ)の開発(1) | 山本晃輔
猪股健太郎#
綾部早穂# | 大阪産業大学
関西学院大学
筑波大学 |

3-8 催眠に対する態度が催眠感受性に及ぼす影響における没入傾向の調整効果	中谷智美 大浦真一 今井田貴裕 # 福井義一	甲南大学大学院人文科学研究科 甲南大学 甲南大学大学院人文科学研究科 甲南大学
3-9 少年院における非行少年の院内適応行動 評定尺度の作成 —中断群、効果あり群、なし群の介入前得点の比較—	本間優子 長尾貴志 # 相賀啓太郎 # 高橋譲 #	新潟青陵大学 四国少年院 四国少年院 高松矯正管区
3-10 典型的バーンアウトのエピソードに関する探索的検討 —KH Coder を用いた質的調査—	井川純一 中西大輔 #	大分経済学部 広島修道大学健康科学部
3-11 児童における協同的な学習活動とメタ認知的方略	岡田涼	香川大学
3-12 性別違和に対する態度：中日大学生の比較	陳曦 守谷順	関西大学大学院 心理学研究科 関西大学大学院 心理学研究科
3-13 ホームシックネスの臨床的定義 —臨床的有用性のある定義づけのためのレビュー—	LEE STEVE K 松葉百合香 原口幸 板野蛍 井原成男 #	早稲田大学大学院人間科学研究科 早稲田大学大学院人間科学研究科 早稲田大学大学院人間科学研究科 早稲田大学大学院人間科学研究科 早稲田大学人間科学学術院
3-14 揺れ動く自己に対する評価を探る —自尊感情のベースラインからのズレに着目して（2）—	市村美帆	和洋女子大学
3-15 文化部・運動部イメージと部活経験、活動目標との関連 —部活 IAT によるステレオタイプ of 検討—	北村英哉	東洋大学
3-16 友人グループの地位は学校享受感、顕在的・潜在的自尊心と関連するか —ネット調査を通じた中高生間比較—	水野君平 柳岡開地 #	北海道大学大学院 東京大学

<p>3-17 パーソナリティ・批判的思考態度における性差と環境感受性 — とくに感受性と批判的思考態度における中学生と成人の違い —</p>	<p>上原智香子</p>	<p>明治大学大学院</p>
<p>3-18 妊娠期と育児期の母親のQOL尺度の構造についての試み</p>	<p>孫怡</p>	<p>立命館大学 R-GIRO</p>
<p>3-19 イギリスにおいて過剰適応は存在するか — 過剰適応と完全主義の関係についての検討 —</p>	<p>阿部夏希 小池真由# Loughnan Steve # 中島健一郎#</p>	<p>広島大学大学院 The University of Edinburgh The University of Edinburgh 広島大学</p>
<p>3-20 SBP 実施過程における「自己の強みの受け入れ」に関する研究 プログラム参加者が感じる強みの実感</p>	<p>森本哲介 高橋誠</p>	<p>兵庫教育大学 埼玉学園大学</p>
<p>3-21 教師の気持ちや意欲と校長のリーダーシップの関連</p>	<p>草海由香里</p>	<p>法政大学大学院</p>
<p>3-22 自己指針の内容と評価懸念の関連 — 理想自己・義務自己・望ましくない自己の3側面から —</p>	<p>能渡綾菜 関森真澄 望月聡</p>	<p>筑波大学大学院人間総合科学研究科 筑波大学大学院人間総合科学研究科 法政大学</p>
<p>3-23 自己価値の随伴性が計画的な課題遂行に及ぼす影響 — 進捗状況判断時の情動に着目して —</p>	<p>黒住嶺 外山美樹</p>	<p>筑波大学人間総合科学研究科 筑波大学人間系</p>
<p>3-24 ゲーム依存とアンヘドニア傾向の関連 — 行動活性化と抑うつにも着目して —</p>	<p>古賀佳樹</p>	<p>中京大学大学院</p>
<p>3-25 The Relationship Profile Test 日本語版の作成と妥当性の検討</p>	<p>池田亜紗 磯崎三喜年#</p>	<p>国際基督教大学 国際基督教大学</p>

3-26 健康リスク情報に対する自己防衛反応の検討 —他者のスマートフォン使用時間の過大推測への影響—	下田麻衣 下田俊介	立正大学 東洋大学
3-27 エナジードリンクの飲用傾向とパーソナリティ特性の関連 —Big Five とコーピングに着目した検討—	吉野伸哉 小塩真司	早稲田大学大学院 早稲田大学文学学術院
3-28 パーソナリティ障害傾向におけるセルフ・モニタリングが自己像の不安定性に及ぼす影響	榎引夏歩 望月聡	筑波大学大学院人間総合科学研究科 法政大学現代福祉学部
3-29 解離性体験を生成する確率分布は何か— 一般化ガンマ分布と半コーシー分布への当てはめの試み—	池田龍也 浦野由平#	広島文化学園大学看護学部看護学科 東京大学大学院理学系研究科・理学部学生支援室
3-30 共感性各特性が表情刺激に対する印象に及ぼす影響 —印象の主要回答・印象の強さに着目して—	榊絵里加 望月聡	筑波大学大学院 法政大学
3-31 コミットメントと心理的暴力被害の関連は暴力の被害段階によって異なるか	古村健太郎	弘前大学
3-32 子どもに対する指導方略に関する探索的研究 —大学生を対象とした被指導経験に関する自由記述調査—	佐藤純 向居暁 廣田信一# 水野雅之# 軽部雄輝#	茨城県立医療大学 県立広島大学 山形大学 東京家政大学 国際医療福祉大学
3-33 相貌および身体の不満足感における性差の検討	伊藤泉	慶應義塾大学政策・メディア研究科
3-34 きょうだい構成が親の養育態度と個人の性格との関連に与える影響	勝間理沙	京都大学 高等教育研究開発推進センター

3-35 女子短期大学生の学習継続動機づけの変容 —学科選択動機づけとの関連—	大熊美佳子	秋草学園短期大学
3-36 心のゆとりが失敗行動に及ぼす影響	山田尚子 鈴木理花 #	甲南女子大学 株式会社フラットフィールド
3-37 小学校低学年児童のアサーションを育成する方法の検討	高橋均	広島大学大学院教育学研究科
3-38 暗黙の知能観が妬みの生起に及ぼす影響	服部陽介	京都先端科学大学
3-39 バランスのとれた時間的展望と自発脳波の関連 — α 波の左右差を用いた探索的検討—	橋本淳也 小林亮太 # 柏原志保 # 平本亮介 # 原口優輔 # 本多樹 # 石田紀香 # 岸本和美 # 岡崎彩香 # 中野歩菜見 # 堀之内滉 # 朱建宏 # 孫玥澤 # 山本一希 # 中尾敬 #	広島大学大学院教育学研究科 広島大学大学院教育学研究科 広島大学大学院教育学研究科 広島大学大学院教育学研究科 広島大学大学院教育学研究科 広島大学大学院教育学研究科 広島大学教育学部 広島大学教育学部 広島大学教育学部 広島大学教育学部 広島大学教育学部 広島大学大学院教育学研究科 広島大学大学院教育学研究科 広島大学大学院教育学研究科 広島大学大学院教育学研究科
3-40 大学生の Sense of Coherence と幸せへの動機づけの関係 —Eudaimonic な幸福追求の背景要因—	磯和壮太郎	所属なし
3-41 完全主義的自己提示尺度 (PSPS) 日本語版の開発 その 1 —内的一貫性と再検査信頼性の検討—	片岡春奈 福井義一	なし 甲南大学

日本パーソナリティ心理学会第 28 回大会 準備委員会

委員長 荒川 歩 (武蔵野美術大学)

委員 鈴木公啓 (東京未来大学) 友野隆成 (宮城学院女子大学)

筒井亜湖 (武蔵野美術大学) 桂 瑠以 (川村学園女子大学)

林明明 (日本学術振興会/国立精神・神経医療研究センター)

山本尚樹 (武蔵野美術大学) 牟田季純 (早稲田大学)

デザインアドバイザー 吉田優香

日本パーソナリティ心理学会第 28 回大会プログラム
発行日 2019 年 7 月 19 日
発行者 〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736
武蔵野美術大学造形構想学部
日本パーソナリティ心理学会第 28 回大会準備委員会